

## 投稿論文の書き方講座 2

### ～現場の実践を「実践研究論文」にするために～

町 岳（東調布第一小学校）・須藤 文（久留米大学）  
指定討論者：藤田哲也（法政大学）

キーワード：現場の実践、実践研究論文、投稿、審査

学校現場では、一人一人の教員により、創意工夫がなされた優れた実践が日々行われているものの、それらが発信・共有される機会は多くはない。本フォーラムでは、昨年度に引き続き、学会の会誌「協同と教育」への論文投稿を促すことを目的とし、学校現場の実践を「実践研究論文」にまとめて投稿するために注意すべき基本的な考え方や具体的な方法について、実践研究論文を作成した経験をもつ町と須藤が、具体例を示しながら解説する。指定討論者として、実践研究論文の審査経験も多い藤田哲也先生からコメントをいただき、参加者の皆さんとの意見交換を積極的に行いたい。

#### <問題の設定から論文投稿・採択までの流れ>

1. **問題の設定：自分はこの研究において何を明らかにしたいのか、はっきりさせる**  
(例) A という児童(学級・学校)の〇〇を調査する  
(例) B という実践の結果、A がどのように変化したかを調査する  
↓
2. **研究デザイン：誰を対象に、何をを使って、何を調査するのか、はっきりさせる**  
\*自分の理論的枠組みを、先行研究をもとにはっきりさせておく  
(例) 授業計画を立てる～授業の効果を見たい場合  
(例) 調査計画を立てる～〇〇の効果を、〇〇を使って、授業前後に測る  
↓
3. **実践・調査：学校現場での実践（ここは皆さんが普段やっていること！）**  
↓
4. **データの分析・考察：「データ分析の結果いえる事」を中心に、論を組み立てる**  
\*思い通り(仮説)の結果が出た場合と、出なかった場合  
↓
5. **執筆・投稿：タイトルから考察まで、1本の筋が通るように書こう**  
\*詳しくは「論文投稿までの実際」で  
↓
6. **修正・採択：査読者とのやり取りを通して、論文をブラッシュアップしよう**

\*審査結果は「掲載可・一部修正可・修正再審査・掲載不可」の4段階  
\*査読者とのやり取りは、「回答」と「修正対照表」を通して行う

#### <論文投稿までの実際、須藤・安永(2011)を事例として>

1. 授業実践前
    - 授業対象者を決める
    - 授業教科と単元を決める
    - 研究協力者を交えた打ち合わせを行う
      - ・実態把握…学力、学習方法、支援を要する児童の様子、等打ち合わせ後の授業計画
    - (1) 単元目標の決定
    - (2) 単元計画表の作成(15時間分)
    - (3) 認知面の評価…基礎テスト(業者テスト)、活用テスト(業者テスト・自作)
    - (4) 態度面の評価…Q-Uの実施(単元の事前・事後)
    - (5) グループ編成(4人が基本)とメンバーの役割(司会・記録・時間・発表)
    - (6) 保護者への説明(授業参観後の懇談会で説明 → 承諾書を書いてもらう)
    - (7) 記録の方法…ICレコーダー、ビデオカメラ、授業参観者のノート、児童の学習プリント
  2. 授業実践中
    - 毎日の授業の反省と、次の日の授業の準備を行う
  3. 授業実践後
    - 認知面、態度面の評価を行う
    - 認知面…平均点を算出し、1,2学期のデータと比較する
    - 態度面…全国平均と比較したり、実践前後で比較したりする
    - 記録した様々なデータを基に、「問題と目的」「方法」「結果」「考察」の順に書く  
その際、投稿先の形式に則って書く
    - 「問題と目的」における論文レビューが特に重要
- #### <論文採択までの実際>
1. 1回目審査から再投稿まで
    - 査読者からの通知…審査結果とコメント
    - 論文修正作業…査読者のコメントをもとに論文を修正・「修正対照表」作成
    - 査読者への回答…査読者のコメント1つ1つに回答する
  2. 審査から再投稿+3回目審査から最終投稿まで
    - 上記と同じ作業(3回目が最後のチャンスと考えて！)
  3. 結果通知